世界遺産
韮山反射炉

／構成資産の位置／

世界遺産
ing

世界が認めたその価値

明治日本の産業革命遺産

製鉄・製鋼、造船、石炭産業

九州、山口、岩手、静岡の８県23資産で構成する「明治日本の産業革命遺産」は、西洋から非西洋国家に初めて産業化の伝播が成功したことを示しています。19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、日本は製鉄・製鋼、造船、石炭産業を基盤に急速な産業化を達成しました。一連の資産は、1853年から1910年までのわずか50年余りという短期間で、この急速な産業の近代化が達成された３つの段階を反映しています。

第一段階は、1850年代から1860年代前半にかけての幕末期で、製鉄や造船の試行錯誤期でした。韮山反射炉もこの時期に該当します。国防、特に海外からの脅威に対する海防を強化する必要から、各藩が西洋の技術書や西洋の事例の模倣により（直接ではなく）二次的に知識を得て伝統的な匠の技と組み合わせ、産業化を進めました。

第二段階は、明治時代に入ってからの1870年代前半で、西洋技術およびそれを実践するための専門知識を導入した時期でした。

最終段階である明治後期（1890〜1910年）の第三段階は、国内に専門知識が蓄積され、西洋技術を積極的に改良して日本のニーズや伝統に適合させることにより、本格的な産業化が達成されました。

これらが、世界的に類のない希少なものとして価値を成すことから、2015年7月、世界文化遺産に認定されました。

ジャイアント・カンチレバークレーン

端島炭坑

萩反射炉